

# 献血の現状と課題



令和5年度 東京都献血推進協議会  
東京都赤十字血液センター  
鹿野 千治



## 血液製剤の流れ



## 令和4年度 供給・採血状況

### 医療機関

(供給本数 合計) 計 60万本



赤血球製剤  
38万本



血漿製剤  
11万本



血小板製剤  
11万本

※本数は200mL献血から得られる量に換算した本数

### 製薬メーカー

(原料血漿送付量)

13.4万リットル

JR 日本赤十字社製薬事業

kmb 株式会社キムボ

丸田薬業工業株式会社

### 事業所・学校、献血ルーム等



(献血により受入れた献血者数) 計 57万人

35万人  
400mL献血

20万人  
成分献血

2万人  
200mL献血

(献血により受入れた血液量) 計 25.2万リットル

【献血できる場所】

献血バス 2,979稼働/献血ルーム 13か所

11.8万リットル  
輸血用血液製剤用

13.4万リットル  
血漿分画製剤用原料血漿用

輸血用血液製剤



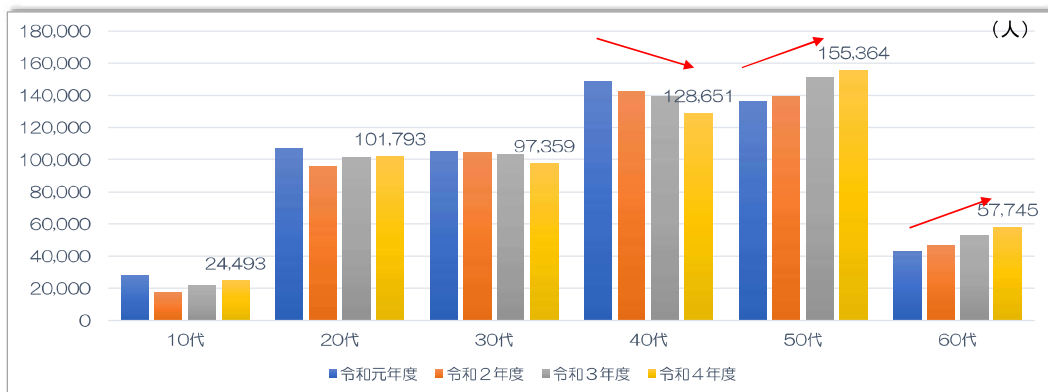
### 血液センター

(血液の検査・製造・供給)

原料血漿

3

## 年代別・延べ献血者数推移 (令和元年度から令和4年度)

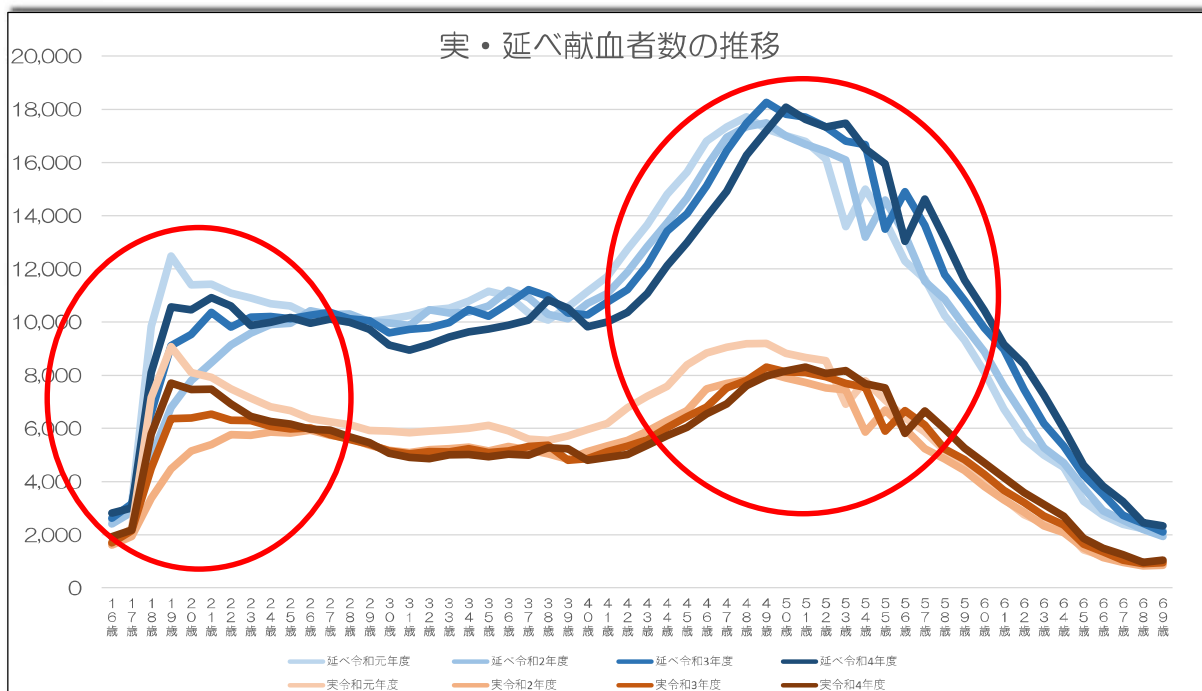


年代	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
10代	28,029	16,947	21,481	24,493
20代	106,506	95,864	100,955	101,793
30代	105,187	104,149	102,981	97,359
40代	148,795	142,513	139,139	128,651
50代	135,775	139,474	150,966	155,364
60代	42,765	46,242	52,736	57,745
年度計	567,057	545,189	568,258	565,405

令和元年度比	令和3年度比
-3,536	3,012
-4,713	838
-7,828	-5,622
-20,144	-10,488
19,589	4,398
14,980	5,009
-1,652	-2,853

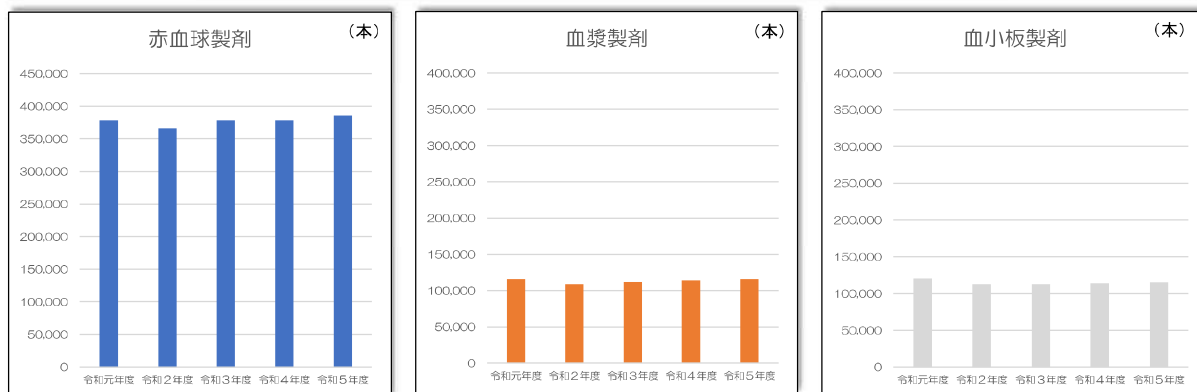
4

## 実・延べ献血者数推移（令和元年度から令和4年度）



5

## 供給実績推移（令和元年度から令和5年度）

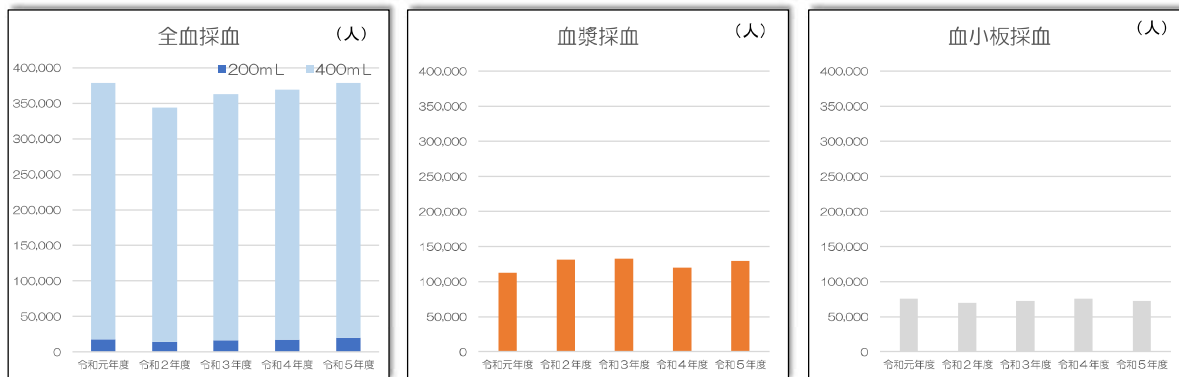


年度	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	合計 (本)
令和元年度	378,167 (12)	115,705	120,748	614,620
令和2年度	366,090 (6)	108,902	113,157	588,149
令和3年度	378,268 (0)	111,573	113,070	602,911
令和4年度	378,322 (0)	113,945	113,886	606,153
令和5年度	385,762 (0)	115,870	115,223	616,855

- ※ 令和2年度については、コロナ禍の影響により令和元年度と比較して、全体で約3万本（約4.5%）減少
- ※ 令和5年度（見込み）については、令和4年度と比較して全体で約1万本（約1.7%）増加
- ※ 令和5年度については、4～1月まで実績とし、2～3月は事業計画であること
- ※ 赤血球製剤（ ）内の数値については、全血製剤の本数

6

## 採血実績推移（令和元年度から令和5年度）



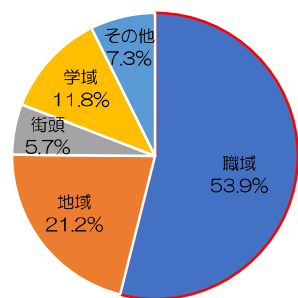
年度	200mL	400mL	血漿 (PPP)	血小板 (PC)	合計 (人)
令和元年度	17,677	360,862	112,593	75,925	567,057
令和2年度	14,482	329,479	131,290	69,938	545,189
令和3年度	16,210	346,409	133,133	72,506	568,258
令和4年度	17,201	352,120	120,199	75,885	565,405
令和5年度	19,803	358,840	129,650	72,884	581,177

- ※ 令和2年度については、コロナ禍の影響により令和元年度と比較して、全体で約2万人（約4.0%）減少
- ※ 令和5年度については、令和4年度と比較して全体で約1万6千人（約2.8%）増加
- ※ 令和5年度については、4～1月まで実績とし、2～3月は事業計画であること

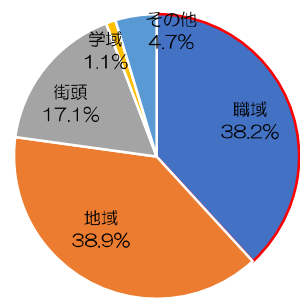
7

## 移動採血域区分別献血者状況（東京都）

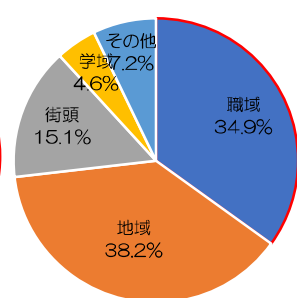
令和元年度（2019年度）  
移動採血 域区分別献血者数



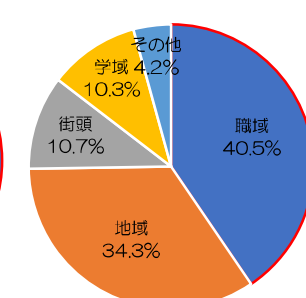
令和2年度（2020年度）  
移動採血 域区分別献血者数



令和3年度（2021年度）  
移動採血 域区分別献血者数



令和4年度（2022年度）  
移動採血 域区分別献血者数



域区分	献血者数	構成比
職域	85,031	53.9%
地域	33,441	21.2%
街頭	9,014	5.7%
学域	18,664	11.8%
その他	11,575	7.3%
総計	157,725	100.0%

域区分	献血者数	構成比
職域	47,359	38.2%
地域	48,322	38.9%
街頭	21,174	17.1%
学域	1,326	1.1%
その他	5,814	4.7%
総計	123,995	100.0%

域区分	献血者数	構成比
職域	46,669	34.9%
地域	51,098	38.2%
街頭	20,134	15.1%
学域	6,201	4.6%
その他	9,581	7.2%
総計	133,683	100.0%

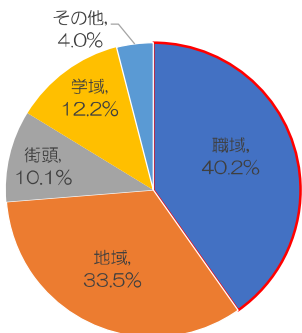
域区分	献血者数	構成比
職域	53,601	40.5%
地域	45,467	34.3%
街頭	14,145	10.7%
学域	13,663	10.3%
その他	5,628	4.2%
総計	132,504	100.0%

8

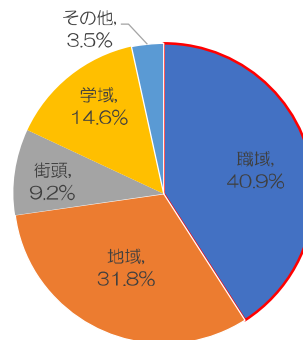
## 移動採血域区分別献血者状況（東京都）

※ 4月～1月の実績

令和4年度（2022年度）  
移動採血 域区分別献血者数



令和5年度（2023年度）  
移動採血 域区分別献血者数



域区分	献血者数	構成比
職域	44,510	40.2%
地域	37,073	33.5%
街頭	11,152	10.1%
学域	13,534	12.2%
その他	4,437	4.0%
総計	110,706	100.0%

域区分	献血者数	構成比
職域	47,307	40.9%
地域	36,730	31.8%
街頭	10,683	9.2%
学域	16,899	14.6%
その他	3,999	3.5%
総計	115,618	100.0%

9

## Web会員サービス「ラブラッド」の活用

令和6年1月末でラブラッド会員約62万人、献血予約が約55%  
献血をしたことの無い方や献血可能年齢に満たない人でも「プレ会員」  
登録いただき献血年齢に達した際、ご案内することで献血へ導く。

ラブラッドアプリの導入（2022年9月28日）



献血セミナー状況（高校等）



10

## 献血セミナー状況

### 献血セミナー実施件数及び参加者数

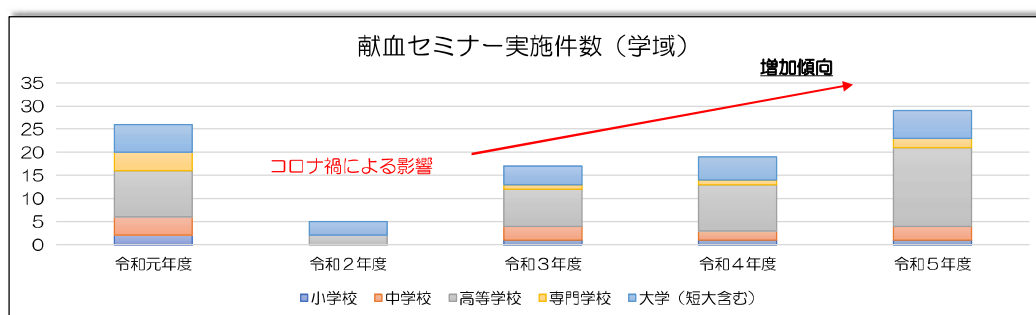
※ 令和5年度については、令和5年4月から令和6年1月までの実績であること

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施回数	58 (0)	8 (0)	42 (12)	48 (11)	49 (7)
参加者数	4,954	535	6,228	5,275	7,152

### 献血セミナー実施件数（学域）

※ ( ) 内については、Web開催件数

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	2	0	1	1	1
中学校	4	0	3	2	3
高等学校	10	2	8	10	17
専門学校	4	0	1	1	2
大学（短大含む）	6	3	4	5	6
合計	26	5	17	19	29



11

## Web会員サービス「ラブラッド」活用状況

- 「ラブラッド」の登録会員の獲得のほか、  
献血協力の事前予約を推進  
⇒必要血液量を計画的かつ安定的に確保
- 事前に問診回答が可能になり、献血カードも  
アプリに献血がより身近なものに  
⇒ラブラッド会員の増加と複数回献血への促進



### 【「ラブラッド」の活用状況】

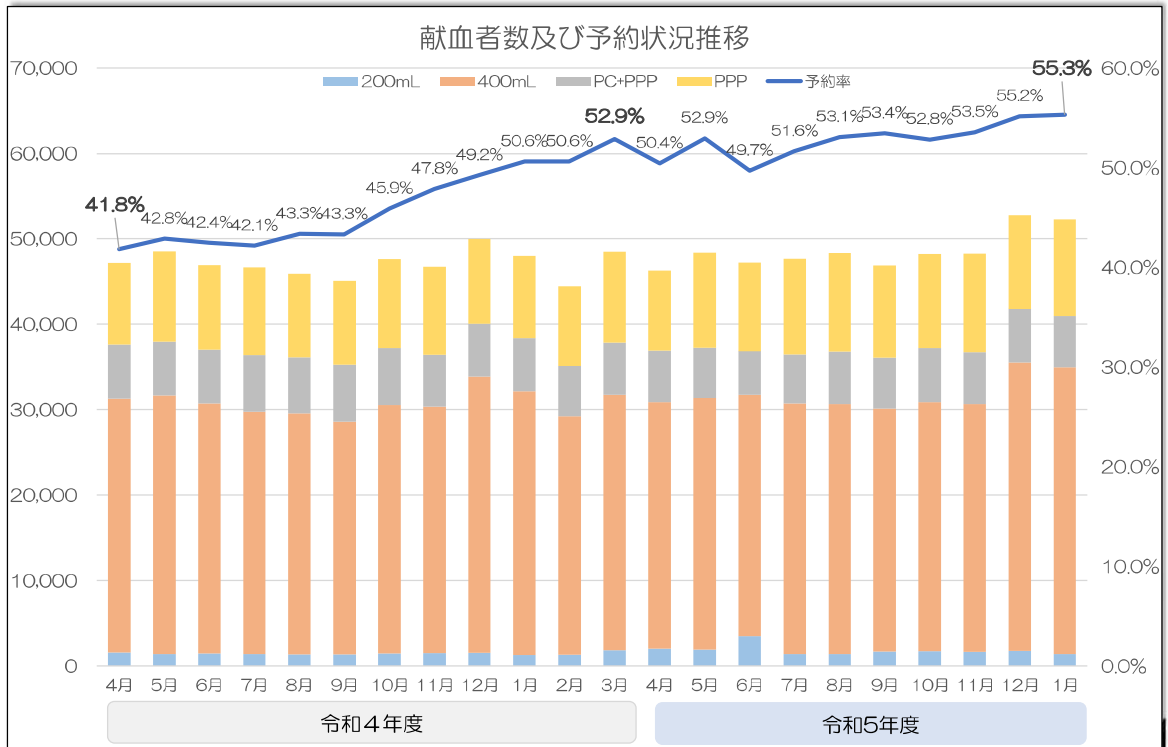
※ 令和5年度については、令和6年1月の実績であること

	ラブラッド 会員数	予約率 (血小板成分献血)	予約率 (血漿成分献血)	予約率 (全血献血)
ラブラッド導入時 (平成30年10月)	約36万人	48.2%	45.0%	1.9%
令和4年度	約57万人	78.9%	73.2%	30.5%
令和5年度	約62万人	83.7%	80.3%	37.6%
増減 (R5-R4)	約5万人増	4.8ポイント増	7.1ポイント増	7.1ポイント増

ラブラッド会員数は増加し、予約率も向上

12

## 献血者数及び予約状況推移



3

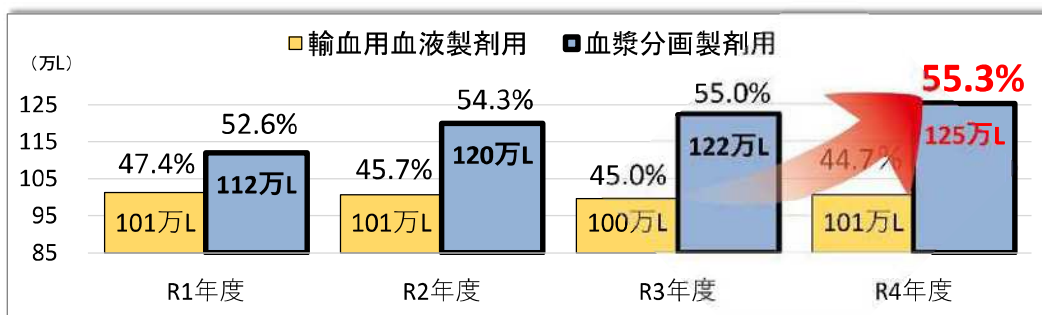
## 血漿分画製剤用原料血漿の必要量推移（全国）



血漿分画製剤の需要増加に伴う必要血液量の増加（免疫グロブリン製剤の需要増加）

日本赤十字社「愛のかたち献血」より抜粋

### 【献血血液の確保計画量の推移】



14

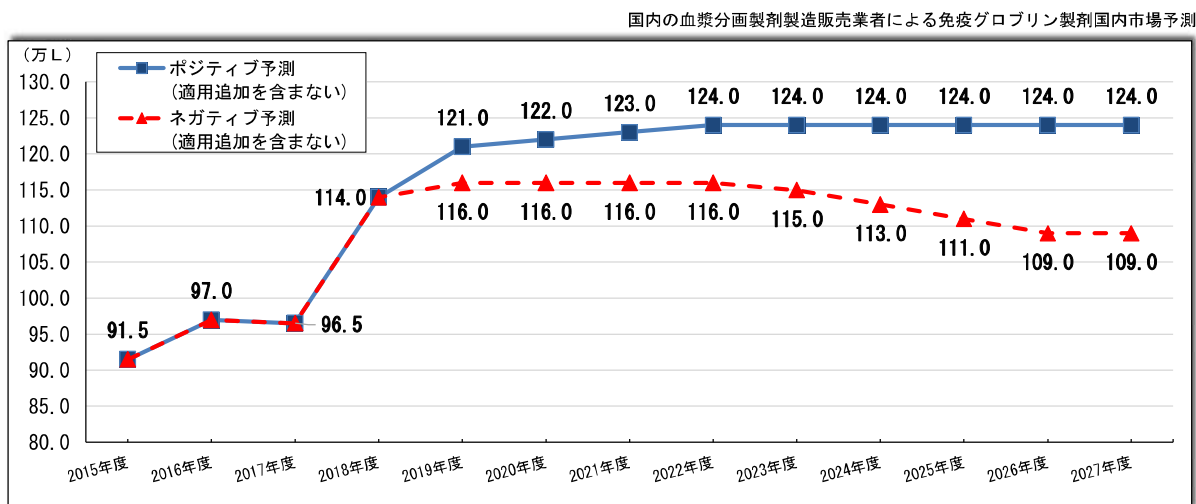
## 必要原料血漿量の予測について

2018年度第4回血液事業部会運営委員会（厚生労働省主催）資料において、2027年度に**ポジティブ予測124万L**、**ネガティブ予測109万L**の原料血漿が必要になる予測が示されたが、新たな適応拡大による需要増は見込んでおらず、適応拡大が順調に進めば、更に15万L程度の原料血漿が必要（時期は未定）との予測が示されている。



平成30年度第4回血液事業部会運営委員会（厚生労働省主催）資料抜粋

## 必要原料血漿量の予測について



- 国内献血由来の原料血漿の配分を受けている製造販売業者による国内全体の免疫グロブリン製剤市場の予測（**シェア拡大及び新たな適用拡大による需要増は含まない。**）から、血液対策課作成。
- 2027年度にポジティブ予測では**124万L**、ネガティブ予測では**109万L**の原料血漿が必要になるとの予測であった。
- ただし、新たな適用拡大による需要増は見込んでおらず、適用拡大が順調に進めば**更に15万L程度の原料血漿が必要**（時期は未定）との予測であった。

平成30年度第4回血液事業部会運営委員会（厚生労働省主催）資料を一部改変



## 血漿成分採血専用 献血ルーム

### 東京八重洲献血ルーム

#### ○ 概要

開所時期 : 令和5年5月1日  
 場 所 : 東京都中央区八重洲2-1-1 YANMAR TOKYO 3F  
 面積概算 : 586.9㎡  
 ベッド数 : 12ベッド



#### ○ 開設コンセプト

血漿分画製剤の社会的認知と、その製造に必要な血漿献血の重要性・必要性を理解していただく。

これまでの「献血に協力していただくための献血ルーム」から、「献血される方が自由に使える時間と空間」という、献血者の視点で利便性・快適性を追求する。

17

## 受付ロビー・コワーキングスペース

#### 受付ロビー



#### コワーキング スペース



18

## 採血室・血漿分画製剤展示コーナー

### 採血室



ベッド間隔2.6m



### 血漿分画製剤展示コーナー



19

## 令和5年5月9日（火） 開所式典

### ★★更なる原料血漿量増加に対する対策

#### ■ 血漿成分採血専用ルームの設置

- 東京（八重洲、令和5年5月1日オープン）、大阪、名古屋に設置（全国で3か所）
- 原料血漿採血専用の完全予約制「献血ルームの次世代モデル」
- 原料血漿確保に対する日本赤十字社の取組姿勢の対外的アピール



東京都赤十字  
血液センター所長

清家日本赤十字社社長  
紀野血液事業本部長

加藤厚生労働大臣

小池都知事

山本中央区長

武田はばたき福祉  
事業団理事長

20

## 今後の課題への取り組み

経済財政運営と改革の基本方針2023について

〔 令和5年6月16日 閣議決定 〕

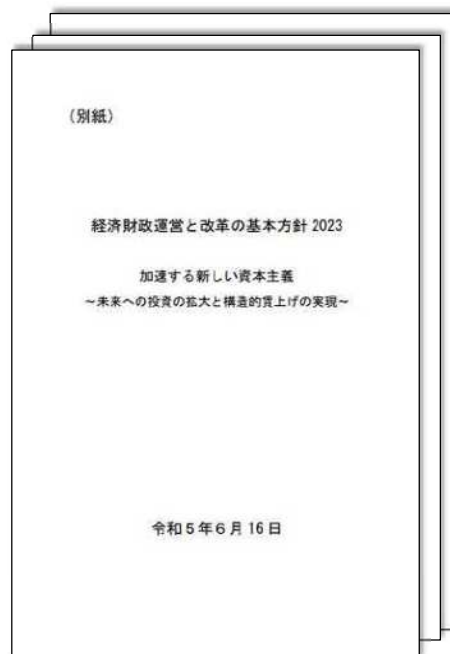


経済財政運営と改革の基本方針2023を別紙のとおり定める。

献血への理解を深める<sup>262</sup>とともに、血液製剤<sup>263</sup>の国内自給、安定的な確保及び適正な使用の推進を図る。

262 小中学校現場での献血推進活動を含む。

263 輸血用血液製剤及びグロブリン製剤、フィブリノゲン製剤等血漿分画製剤。



21

## 今後の課題への取り組み

### ○ 関係者との連携強化

- 行政、医療機関、献血協力団体を始めとする関係者との相互理解を深め、事業を進める。

### ○ 新しい生活様式に適応した献血血液確保体制の確立

- 必要血液量の安定確保及び血液製剤の安定供給
- 安全で快適に献血ができる環境の整備
- 企業等への献血協力依頼におけるアプローチ方法の見直し（CSR活動への働きかけ等）

### ○ 将来の献血基盤の構築

- 若年層献血者の協力強化
- 小・中・高等学校等での献血セミナーの増加
- 献血Web会員サービス「ラブラッド」への登録を促進
- 「ラブラッド」を活用した献血予約の推進

22

ご清聴ありがとうございました。



23